

## P-151

### 当院の人工関節置換術における下肢静脈超音波検査の現状

高山赤十字病院 放射線科

○<sup>はしもと</sup>橋本 <sup>しょうた</sup>翔太、今井 丈晴、田中 知哲、川邊 美穂、大久保鮎美、山下 光弘

【はじめに】一般的に下肢深部静脈血栓症（DVT）は脱水やがん患者、長期臥床、エストロゲン製剤の内服、妊娠や出産、手術後などの危険因子で発症するといわれている。そのなかで当院では整形外科領域の人工股関節置換術（THA）と人工膝関節置換術（TKA）の術前後に超音波検査による下肢深部静脈血栓症（DVT）検査を行っている。今回は、検査結果を振り返り、当院におけるDVT検査の現状を報告する。

【対象】2013年1月～2016年3月までの4年間でTHAとTKAの術前後にDVTスクリーニング検査を行った患者176名

【結果1】術後血栓発症数：31名（発症率 17.6%）術前血栓発見数：5名（2.8%）手術部位別発症数：THA 9名（発症率8.0%）、TKA 22名（発症率35.0%）術後血栓発症部位：患側のみに発症：24名（77.4%）、健側または患側+健側：7名（22.6%）血栓発症部位：患側 鼠頸部2.7%、大腿部2.7%、膝窩部2.7%、下腿部22.2%、下腿筋層内（ヒラメ静脈）69.4%、健側 下腿部50%、下腿筋層内50%術後の平均Dダイマー値：7.66（最小値2.1、最大値23.2）術後に血栓を認めた患者の平均Dダイマー値：9.96（最小値2.7、最大値23.1）

【考察】・長期の安静による血栓形成が考えられる。・TKAは手術部位が静脈血管の走行に近いため、血管侵襲を伴いDVTを発症すると考える。・術後のDダイマー値は手術の影響により高値を示すと考える。

【まとめ】術後のDダイマー値は高値を示すため、DVT発症の指標にはならない。そのため、超音波検査は術後のDVTスクリーニング検査として有用であるといえる。人工関節術は、血栓を発症する可能性は高く、また、健側にも発症する可能性を考慮して検査を行うことが重要であると考えられた。